

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和7年3月14日

提出区分	実績	整理番号	13	課題区分	C		
横断的な課題	林業・木材産業の振興と森林資源を活かした二酸化炭素吸収の確保						
地域重点政策	林業・木材産業の振興と森林資源を活かした二酸化炭素吸収の確保					木曽地域振興局	
実施機関	長野県木曽青峰高等学校			担当課	所属	長野県木曽青峰高等学校	
事業名	専門科の全国募集に係る先進的取り組み高校視察事業				電話	0264-22-2119	
					E-mail	seiho-hs@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	他県の全国募集を先進的に実施している学校を視察し、それらの学校が全国募集実施後、工夫してきた点、課題となった点を全国募集準備委員全体と県教育委員会高校教育課とで共有する。そして、将来の森林産業をはじめとする産業の担い手育成の手段として全国募集を成功に導いていきたい。					
	現状と課題	<p>木曽青峰高校の専門科(森林環境科)は、森林資源の活用や環境保全についての専門的な知識や技術の習得ができる、(また専門科(インテリア科)は森林資源を活用し住環境づくりの中での諸課題を解決するためのデザインやものづくりについての専門的な知識や技術の習得ができる)県内唯一の学科であるが、ここ数年志願者数が減少しており定員割が続いている状況である。木曽の森林産業をはじめとする産業の人材の育成のためにも、長野県内だけでなく全国から生徒を募集する方向性を探るための研究を始め、一昨年より県内外の視察(R4年度は飯山高校、R5年度は青森県立名久井農業高校、白馬高校)を行ってきた。また、教育課程の再検討へも着手した。</p> <p>昨年度(R6)より全国募集準備委員会を発足させ、研究を始めたことで、事業に対し様々な問題点、不明点が明らかになってきた。そこで、全国募集を開始するにあたって、愛媛県の先進的に全国募集を実施している複数の高校を視察し、各校の現状と、実施にあたり問題となった点を共有することで、本校の全国募集に向けた懸案の解消を進めた。さらに全国募集が成功している高校の強みについても視察することで、本校の売りとなるポイントと全国募集をうまく融合させていきたい。専門科の新教育課程が完成しR7からR8の全国募集に向けてPR期間となっている。</p> <p>(課題点) 金銭面の補助、休祝日・長期休業の寮管理体制、受験希望者へのPRの軸となっているもの、県外受験生へのサポート種類(内容)、入試選抜方法(選考方法、県内生との違い)、不登校を含めた生徒相談問題への対応など</p>					
	内容 (変更後の内容)	<p>愛媛県にある51高校(分校含む)のうち、全国募集を実施している学校は13校である。このうち、現在全国の受験生から注目を浴びている学校に愛媛県立長浜高校がある。長浜高校は普通科でありながら全国唯一水族館を所有し、水族館での学びを理科の学習活動に活かしそのことを全国募集の売りの一つにしている。このような中学生から見て、オンリーワンとなる取り組みを木曽青峰高校において立ち上げるヒントを視察によって得る。加えて長浜高校の近隣の全国募集を実施している専門科高校である野村高校(普通科・農業科)、北宇和高校(普通科・農業科)、北宇和高校三間分校(農業科・普通科)の3校も視察することによって、専門科高校が全国募集を行う際の強み、募集人数が集まらないことから見えてきている課題を提供いただき、本校での実施に向けた課題解決の参考とする。</p> <p>&lt;視察&gt; 令和6年7月23日～26日(3泊4日)森林環境科インテリア科職員及び準備委員会職員3名 &lt;その後の予定&gt; 全国募集準備委員会にて視察内容報告、さらに拡大版地域振興会議、フォレストバレーコンソーシアム、評議委員会等において報告、同時に教育委員会高校教育課とも共有する。 ◎令和6年度に地域振興推進費を活用して学校ホームページを全国募集に対応できる形に改修をした。</p> <p>◎森林環境科インテリア科の全国募集を見据え、「木曽青峰高等学校」の名前を広く周知していくため、外からの人が多く集まる学校見学、体験入学、文化祭だけでなく、東京において開催される「地域みらい留学※」の各校ブースにおいて使用できるのぼり旗を作成した。 ※「地域みらい留学」とは、日本各地にある魅力的な公立高校の中から、住んでいる都道府県の枠を超えて、本人の興味関心にあった高校を選択し、高校3年間をその地域で過ごす国内進学プログラムのこと</p>					
事業期間	令和6年7月			～	令和7年2月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	長浜高校、野村高校、北宇和島高校、北宇和島高校三間分校の視察	職員交通費(3名分) 検討資料作成	257,680	木曽福島-松山 往復交通費36,590円×3名=109,780円 宿泊費 13,100円×3名×3泊=117,900円 愛媛県内現地(ガソリン代 3,237円) 資料作成費等26,763円			
	全国募集に向けたPR	のぼり旗、消耗品の購入	50,000	のぼり旗2,980円×5種(14,900円) ポール1,100円×2本(2,200円) 注水台4,860円×2台(9,720)計26,820円 消耗品 23,180円			
	合計		307,680				
指標状況及び達成	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	森林環境科についての県外からの問合せ数(メール及び電話)		5件以上	1件	○ 達成 ○ 一部達成 ● 未達成		
事業実績	<p>・本年度は専門科(森林環境科、インテリア科)の全国募集に向けての準備期間の位置づけで視察を実施した。全国での本校の周知・認知度は、成果指標としていた県外からの問い合わせ数からみても、まだまだ低い状況である。</p> <p>・しかし、視察を行うことで見えてきた点、地域の支援の必要性、学校としての魅力発信の方法やクラブ活動が重要であること、寮の状況等、現在の木曽青峰高等学校の全国募集に向けての知見を得ることができ、また校内カリキュラム、広報活動の体制を学校として改善することができた。</p>						
今後の方向性	全国募集に向けて、学校だけではなく、木曽地域の林業関係機関(地域振興局林務課、林業大学校、上松技術専門校等)や、木曽町などの支援を得ながら、全国での木曽青峰高等学校の周知、知名度向上にさらに取り組んでいく。						